

2008 年度

科目名  <p style="text-align: center;">ゼミナールⅡ</p>	対象学科・学年 人間社 4 回生	担当者  <p style="text-align: center;">中村 雅司</p>
授業テーマ 卒業研究を遂行する		
授業の概要と目標 卒業研究をおこなうための調査・研究・論文作成の指導を行う。具体的な流れは以下のとおり。 (1) テーマの決定と資料の収集・取捨選択 (2) 調査・研究・制作・考察（各種調査結果の解釈、分析、問題点のあらい出し、問題解決へ向けての考察） (3) 卒業制作、卒業論文の執筆		
評価方法 卒業研究への取り組み方によって評価を行います。		
テキスト 特にありません。(適宜、各自の研究テーマに即した資料を配付します)	著者	出版社
参考書 適宜、各自の研究テーマに即した参考書を紹介します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容  この授業は、受講者のテーマや研究の進め方に柔軟に対応していくので、具体的なスケジュールは確定できませんが、おおむね以下の流れで行います。  1. 各自の研究テーマの設定と研究計画の策定 (第 1～3 回) 3 年次のゼミナールⅠやコミュニティ研究演習で得たそれぞれの問題意識をもとに、研究テーマを各自が設定し、卒業研究として完遂させるための計画を行なう。  2. 調査・研究・制作・発表・討論 (第 4～11 回) 策定した研究計画に従って、調査・研究・制作をすすめる。順番を割り当てて、発表を行ない、ディスカッションおよび考察を行なう。 研究テーマが調査研究である場合は、授業時以外に文献調査や社会調査などを行なってもらい、その成果を授業時に発表する。そして、さらに次に調査すべきこと、分析すべきことをメンバーで討論しながら決定していく。 研究テーマが作品制作である場合は、随時制作にあたり、その成果の発表を授業時に行なう。  3. 卒業論文執筆計画 (第 12～15 回) 卒業論文の執筆を行なうための計画（アウトラインの策定）を前期末までに行なう。さらに、研究を完成させるうえで不足している部分を点検し、夏休み中に行なうべき課題を決定する。  4. 中間発表 (夏休みごろ) 卒業研究の中間発表を行なう。この時点で研究を遂行するための問題点をできるだけ多く抽出する。  5. 卒業論文指導 (第 16～30 回) 中間発表後、引き続き調査・分析・制作などを行ない、並行して卒業論文の執筆を行なっていく。(個別指導が中心となる)  6. 卒業研究の発表 (卒業論文執筆後) 最終的に卒業論文としてまとめたものを口頭発表する。		